

編集：山田浩司 & 美澄

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp

Merry Christmas & Happy New Year 2002



今年も大変お世話になりました。お陰様で、今年も家族全員が大過なく楽しい生活を送ることができました。樹生は毎日楽しく幼稚園に通い、英語も随分達者になってきました。千智も1年前はまだフラフラと歩いていましたが、今では随分としっかり歩くようになり、お兄ちゃんをいじめることもしばしばです。年が明けたら、千智の幼稚園通いも始まります。美澄も交遊の幅が広がり、合気道の練習に、英語の勉強に、そしてプレイグループにと毎日を忙しく過ごしています。

9月以降は、炭疽菌をはじめとするテロの可能性に怯える毎日でした。特にアメリカ政府が最大の出資者である世界銀行は、いつ炭疽菌レターが送りつけられるとも限りません。通勤に地下鉄を使うことすら怖くなりました。戦時国家らしく、今のアメリカでは至るところで星条旗を目にしま

す。同時多発テロの被害者はアメリカ人だけじゃないことを思うと、素直に星条旗を掲げる気持ちにはなれません。政府は、テロリストとの戦いは長期化すると覚悟しています。私達自身がテロの巻き添えにならないよう、常に気を付けて生きてゆきたいと思っています。日本の皆さんもくれぐれもお気を付けて。2002年が今年よりも平和で幸せな1年となりますことを心からお祈り申し上げます。

一時帰国のお知らせ 12月13日~1月5日

当地での任期も最初の1年を経過し、折り返し点を過ぎたところですが、いろいろ考えて、任期延長を希望してみることにしました。うまくいけば2003年10月までのアメリカ滞在となります。現在の借家は2002年11月いっぱいまで賃貸契約を更新し、1年間引越しもなさそうです。1月になると、千智の幼稚園通いが始まり、家族全員が忙しくなりそうだし、アメリカの師走はクリスマス休暇で周囲も閑散としているので、ここで一度日本に帰ってみようかと思っています。

浩司以外は12月13日東京着（浩司は26日着）、1月5日東京発の日程



で一時帰国します。国内連絡先は以下の通りです。

〒181-0011 東京都三鷹市井口 1-13-46 鴨下喜代澄様方 Tel:0422-31-7510

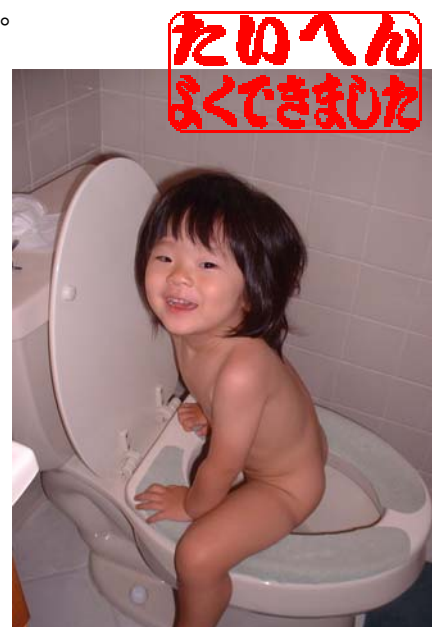
チッチーのトイレ・トレーニング

美澄が千智のことをそう呼んでいたのが隣のオショーンシー・ファミリーに伝染して、いつの間にか千智のニックネームは「チッチー」になった。元々「ちさと」という名前は英語では発音しにくく、現在の状況を想定して命名したわけではなかったため、丁度適当な呼び名だと思う。ちなみに樹生は美澄の友達のママさんグループから、「ミッキー」と呼ばれている。こちらは想定していた通りだ。

千智も間もなく2歳6ヶ月になるため、そろそろ幼稚園に通わせることも考え始めた。遅ればせながら、岐阜の山田ファミリーが無事帰路についた9月下旬頃からトイレ・トレーニングを開始した。こちらの幼稚園では、オムツが取れていない2歳半の子供は受け入れてもらえないところもある。通わせるならオムツが取れていることが前提だろうということで、家の中にいる間はなるべくオムツをはかせないよう努めた。ところが、樹生の時より、ある意味では困難を極めた。

樹生の場合は、3歳になる少し前の5月の大型連休の頃に始め、連休中30分毎に無理矢理トイレに行かさせた結果、オシッコはトイレですることがごく短期間で身に付いた。しなくなったら「トイレ」と言えるようになった。その後はウンチたれ流し事件が2、3回あったのはご愛嬌だが、意外とすんなりオムツが取れた気がする。

一方のチッチーは、便器に座らせても「出ない」と言い、下ろした後で家のどこかでオシッコをたれ流し、事を成した後で「オシッコ」と言う。当然トイレに連れて行っても出るわけがない。垂れ流しに気付くのは、たいていその後だ。板張りの床にしっかり水溜りができている。トイレトレーニング用のパンツは、ひどい時で1日4~5枚濡らすことがあった。それに輪をかけたのは、毎朝樹生を幼稚園に送ってゆく慌しい最中に、必ずチッチーはやぶにらみの表情でいきみ、その後爽快な顔を見せることだ。明らかにウンチをしている。かぐわしい臭いがたちこめ、親はチッチーを捕まえようとするが、チッチーはとにかく逃げる。トレーニング統括本部長の美澄ママは爆発寸前だ。



悪戦苦闘を重ねた末に迎えた11月半ば、オヤジは意を決して週末の2日間を強化合宿に充てた。目が合う度に「トイレ？」と聞き、およそ30分おきにチッチーをトイレに連れて行った。トイレで用を足せば大いに褒め、チッチーのやる気を促す作戦だ。初日こそパンツを1回濡らし、外出中に紙オムツにオシッコを溜めたが、2日目は朝から絶好調で、昼過ぎまでパンツを濡らすこともなく、お昼寝の間も夕方の外出時も紙オムツを濡らさなかった。そして一夜明けた月曜朝、起床とともにオムツをチェックすると、またも濡れていなかった。そして、オヤジが出勤する直前、チッチーが「オシッコ」と言ったので、トイレに連れて行ってから用を足させた。事を成す前に「オシッコ」と言ってくれたのだ。その日、バカオヤジがオフィスで娘の自慢話をしまくったことは言うまでもない。

毎朝起床と同時にオシッコをする習慣も付き、頻繁に便器に座らせるようにしているうちにウンチもするケースが増えてきた気がする。あともう少し、年明けからは、パンツで幼稚園に通えるといいね。

チッチーの幼稚園は、自宅から車で5分のFalls Churchにある。11月にチッチーを連れて見学に行ったところ、自分が入るであろうクラスのオモチャで勝手に遊び始め、ちゃっかり他の子供達と一緒にスナックをご馳走になっていた。泣かないチッチーはエライ。お兄ちゃんとは違う幼稚園だけど、きつとすんなり溶け込めると思う。

これからは、「山田三段」と呼んでくれ！



今年1月に剣道を再開した時、当面の目標は三段を取得することだった。7月にラスベガスで実技審査には合格したが、事前に日本剣道形の練習を全くやっておらず、形審査では前代未聞の不合格となった。8月のコネチカットですぐに受験しようと考えたが、その直前の夏合宿に参加するのが必須条件と言われ、やむなく諦めた。10月のシャーロットでも受験のチャンスはあったが、所属する地区剣連が主催の剣連と異なるために受験手続きがややこしくて諦めた。

そして巡ってきたのが11月4日のニューヨーク州ブロンクスでの昇段審査だ。日本剣道形の練習は、この1ヶ月ほどかなり重点的にやったが、専ら独演中心で、対人練習をやったのは2回しかない。実際に受験する際には初めての相手と演技の呼吸を合わせる必要があるのではどうなるか不安だったが、当日の三段受験者は私を含めて2人しかおらず、事前に相手と演技のすり合わせを入念に行なった上で演技に臨めた。会場が静まり返る中でただ2人演技するのだから、立ち上がりは相当に緊張した。でも、演技が進むにつれだんだん技に集中できるようになった。遠くで千智の話し声が聞こえたが、動揺することはなかった。

そして無事合格。剣道を続ける限り次は勿論四段を目指したいが、三段合格から四段受験までは2年間を開ける必要があり、アメリカ滞在中の受験は既に不可能だ。現在希望している任期延長がかなえば、これから

の2年弱みっちり練習やって、帰国と同時に四段挑戦を目指したい。

2002年の私の目標は、一緒に練習するオークトンの仲間を1人でも多く有段者にすることだ。年初に剣道の練習を再開した頃、オークトンには20人以上の初心者がいた。ひと夏を越して、今もコンスタントに通って来るのは5人程度に激減しているが、彼らも9月からいよいよ防具を装着して有段者と一緒に練習を始めた。さすがに大人で飲み込みも早く、あと1年以内に初段を取れそうなメンバーもいる。そんな彼らを常に励ましながら、一緒に歩いてゆきたい。そして、オークトン・クラブで1チーム作り、団体戦を戦うのが夢だ。(浩司)

鉄道オタクへの道

樹生君は日本にいる頃から「機関車トーマス」をはじめ、蒸気機関車が大好きだ。だから、家族旅行はSL絡みがやたらと多い。去年の夏休みは真岡鉄道のSL列車の旅に出かけたし、アメリカに来て最初の観光らしい観光はボルチモアの「ボルチモア&オハイオ鉄道博物館」だった。ボルチモアには既に4回出かけ、9月に山田ファミリー一行を同博物館に案内した際には、とうとう博物館の支援会員にまで登録してしまった。会員になれば入場料がタダになるからだ。



10 月には、メリーランド州ブランズウィックの秋祭りの列車ツアーに出かけ、あてが外れてディーゼル車だったために機嫌を損ねた樹生をなだめるため、ブランズウィック駅近くの鉄道模型博物館、さらにウエストバージニア州ハーパーズフェリーの鉄道博物館にまで連れて行った。

それでも蒸気機関車にこだわる樹生君との約束を果たすため、11 月 3 日にペンシルバニア州ランカスターのストラスバーグ鉄道駅に出かけた。ブランズウィック鉄道模型博物館で美澄が言葉を交わした観光客から、「DC 近郊の鉄道関連施設としては、ストラスバーグがお薦め」と聞かされていたからだ。これが本当に最高で、アーミッシュの人々が昔ながらの風習を守って生活するランカスターの田園地帯をぬって走る 45 分の列車の旅だった。

近くには「ペンシルバニア鉄道博物館」や鉄道模型博物館と鉄道ショップ、乗務員搭乗車を改造した宿泊施設など、鉄道関係の施設がいっぱいあって、とても 1 日では足りない。北海道を思い出させる広大な原野の中に、プレッツェル工場（ランカスターはプレッツェルで有名）、アーミッシュの手工芸品店もある。足を伸ばせばチョコレートで有名な「ハーシーズ」の遊園地もあるし、お買い物好きの奥様には羨望の的である超巨大アウトレットモールもある。

ストラスバーグ駅では、12 月始めに本物の「機関車トーマス」が客車を引くイベントがあるので、さっそくチケットを購入して 12 月 1 日にまたもや出かけた。イベントは大盛況で、客車に乗るまで 1 時間以上待たされたが、子供達には大盛況だった。

列車ツアーは 1 月～3 月がオフシーズンだ。米国東海岸の鉄道関連スポット制覇に向け、情報収集と整理に充てたい。…などと言ってるオヤジもまた「鉄道」と聞いて興奮気味だ。「鉄道輸送の発展と衰退は、その国の地域経済の盛衰や、国の発展プロセスを映す鏡だ」などと理屈こねてるが、要は「D51（デゴイチ）」に胸ときめかせた少年時代を思い出させるからなのだろう。（浩司）

ハロウィーン

随分と時間が経ってしまいましたが、ハロウィーンについても書きたいと思います。毎年 10 月 31 日はハロウィーンの日で、子供達が仮装して「トリック・オア・トリート」といいながら家々を練り歩きお菓子をもらいます。樹生と千智も COSTCO で買った馬（樹生）と象（千智）の着ぐるみを着て、隣りのマリーとトーマスと一緒に近所を一時間ぐらいかけて回りました。



各家では、趣向をこらしたハロウィーンの飾りつけがされており、右の写真のような「ジャック・オー・ランタン」と呼ばれるカボチャをくりぬいて作ったランプを置き、骸骨を飾ったり、くもの巣を張り巡らせたりと、どんな飾りがしてあるか見に行くだけでも楽しくなります。電気が消えている家は人がいないか、「トリック・オア・トリート」に参加しないという意思表示なので、ベルを鳴らしません。

ハロウィーン・パレード（「トリック・オア・トリート」と言いながら各家を回りお菓子をもらう事）の中心は中学生ぐらいまでで、小さな子供達には親と一緒に付いてまわります。隣りのトムが子供の時は子供だけで色々な家を回ったということでしたが、今は何があるかわからないので親も一緒にいたほうが安心です。また、今年はテロの影響でハロウィーン・パレードも何が起こるかわからないので中止してホームパーティーに切り替えたところもあったようです。

さて当日は、まず夕食を済ませ、浩司さんには留守番してうちにきた人にお菓子を配ってもらい、私と樹生、千智は 7 時ごろトーマスの家に行きニーナと私が一緒について近所を訪ねはじめました。日ごろ近所の人とは交流が無いのですが、この日ばかりは色々な家のベルを鳴らし、「トリック・オア・トリート!」「ハッピー・ハロウィーン!」と挨拶をしまわり、子供達はカボチャの入れ物にお菓子を入れてもらいました。訪ねた家の中には、オウムを飼っている家、大きなドーベルマンがいる家、小さ

な赤ちゃんがいる家などがあり、近所の人を知る事が出来ました。ニーナから聞いて初めてわかったのですが、以前から夕方などに年配の人がポーッとポーチに座っていて不思議な家だと思っていた所は、精神病院に行くほど悪くなく、自宅で過ごすほど良くない人達が暮らしているところだったのです。そんなこともニーナと一緒に回ったからわかったことでした。1時間かけて近所を回り終わった頃にはカボチャの入れ物はお菓子で一杯になり、樹生は着ぐるみを着て暑かったのか、汗びっしょりになっていました。家に着くと早速もらったチョコやロリポップを食べて初めてのハローウィーン・パレードに大満足の樹生と千智でした。私はというと、ずっと千智を抱っこしていたのでヘトヘトになってしまいました。(美澄)

話が違ふぞ、NHK!

丁度1年前、衛星放送「テレビジャパン」に加入した。NHKの子供番組は我が家のちびっこギャング達にも好評だったので、言葉のわからぬ異国に来て最初はこれでショックも和らぐだろうと考えた。月々30ドルで、随分とお世話になった。千智や樹生は朝の連ドラ「オードリー」「ちゅらさん」をよく見ていた。9月11日の同時多発テロの際には、丁度我が家に滞在中だった山田ファミリーの貴重な情報源となった。そして元来が日本中世史オタクの私は、大河ドラマ「北条時宗」にはお世話になった。なにしろ、小学校5年の時に図書館で借りたポプラ社「北条時宗」のスペクタクルに感銘を受けて歴史小説の楽しさに目覚めた身である。

当地では、「北条時宗」が日曜日に3回放送される。朝9時過ぎの朝食前後に先ず1回見て、夜8時にもう1回、これらを見過ごしたら深夜1時からもう1回。美澄の「ご飯食べないの!」攻撃と戦い、ちびっこギャング達の大騒ぎに「テレビ聞こえへんやろ!」とそれ以上の大声でどなる。

でも、南北朝や戦国時代の武将なんかと違い、時宗自身にはあまり感情移入できなかった。元寇の最中も鎌倉にいて、時宗自身が合戦の前線で暴れまくったりしなかったからだろう。また、「文永の役」「弘安の役」という形で大河お決まりのクライマックスが準備されていたのはよいとして、いくらなんでも史実曲げ過ぎ。例えば次の通りだ。

- 六代執権北条長時は、暗殺されたのではなく、実際は病死。
- 八代執権北条時宗の異母兄、北条時輔は、実際は二月騒動の時に六波羅探題北方の赤橋義宗により討たれたが、ドラマではなんと最後まで生き延び、34歳で逝去した時宗を見届け、大陸に渡ったことになっている。
- 時宗の正室堀内殿(ドラマの中では「祝子」)は、安達泰盛の娘だが、ドラマの中では妹という設定になっている。
- 時宗の身内人代表の平頼綱は、実際はかなり由緒正しい家柄だったらしいが、ドラマでは孤児で、安達泰盛が長時暗殺に使ったヒットマンという設定になっている。
- 時宗の弟、宗政は、実際は文永の役には参戦していなかったらしい。また、実際は病死なのに、ドラマでは弘安の役で戦死したことになっている。
- 最高傑作は、後の足利尊氏(当時は「高氏」)が、執事の高師氏に伴われて覚山尼(出家した祝子)を訪れ、足利家に伝わる天下獲りの伝承を語る場面が、ある回の冒頭にあったが、これが本当にあったとすると、覚山尼は69歳(実際は59歳で没)、高師氏に至ってはなんと百数歳になる計算で、こんな場面は絶対にあり得ないらしい。

どうせ史料に乏しい中世を扱っているんだから、史実と違うことをでっち上げてドラマとして面白ければいいというのは、制作者側のご都合主義以外の何ものでもないぞ。確かに、宗尊親王役の吹越満とか、金沢実時役の池畑慎之介(ピーター)とか、北条時輔役の渡部篤郎とか、主役を食うほど個性的なキャラクターを演じていて面白かったけれど、これを見て間違った歴史認識を持つ視聴者が増えるのではないかとちょっと心配だ。(浩司)

「編集後記」…と呼ぶには数多い今秋の些細な出来事

- この秋の最大の収穫は剣道三段取得だったわけですが、その2週前の10月20日、南東地区剣連主催のトーナメント出場のため、家族全員でノースカロライナ州シャーロットにもドライブ旅行しました。自宅からシャーロットまでは、途中休憩を何度か挟むと7時間はかかります。本当は現地で2泊したかったのですが、初日の運転中に子供達が異常にうるさかったのに懲り、翌日の試合終了後、直ちにワシントンに帰ることにしました。お陰で子供達は早々に熟睡モードに入り静かなドライブにはなりましたが、途中のハイウェイは真っ暗、交通量も少なく、緊張感が薄れて非常に眠くなりました。リッチモンドからアーリントンまでの最後の100マイルは、午前零時過ぎなのに逆に交通量は増え、意識朦朧の中で結構危ない運転でした。試合結果？アメリカ人選手に初めて負けました。自分と同じ剣風の選手だったので、負けた気がしませんでした。(浩司)
- NYに初めて出かける際、私が十六銀行在勤時代にお世話になった日下部久さんが東京三菱銀行NY支店の研修生として来られていることを思い出し、事前に電話でコンタクトしました。マンハッタンの対岸のニュージャージー(NJ)州側にお住まいで、日本食材のスーパーマーケット「Mitsuwa」(旧ヤオハン)や、紀伊国屋書店NJ支店が近いことを伺いました。同行を渋っていた美澄も、お陰で「私も行く！」と言い始めました。昇段審査前日の夜は、日本食レストランで食事もご一緒下さり、国際部時代にお世話になった行員の方々のご消息を懐かしく伺いました。また何ヶ月かしたらNYに行こうと帰路美澄と話していましたが、私がなんと結婚指輪をホテルに置き忘れるというドジを踏み、11月下旬のサンクスギビングの連休中、日帰りで行くはめになりました。(浩司)
- ペンシルバニア州ランカスターにはアーミッシュの人々が昔ながらの風習を守って生活しています。アーミッシュとはキリスト教の一宗派で、昔からの宗教上の規律をかたくなに守り、電気も使わず、自動車の代わりに馬車に乗り、農業をしながら17世紀と同じ生活している人たちです。ちょうどストラスバーグ鉄道駅はアーミッシュカントリーの中にあるので、蒸気機関車に乗りに行った時にはアーミッシュの人たちを見かけました。馬車に乗って移動し独特な服を着ているのすぐわかります。洗濯物を乾燥機で乾かすのが一般的なアメリカで、文明の利器を使わない彼らの家では洗濯物が田園風景の中に旗のように風になびいているのが印象的でした。文明の先端をゆくこのアメリカで17世紀から殆ど変わらない生活をしている彼らを見るととても不思議な気持ちになりました。でもアーミッシュの子供達は、他とは全く違った暮らし方に何の疑問を持たないのだろうか？とも思ってしまった。広い田園風景の中で暮らす彼らに対する憧れもあります。彼らが昔ながらの生活を守れるのも多様な文化を受け入れるアメリカならではののでしょうか。(美澄)
- 11月に、隣りのトーマスが車に轢かれて足に怪我をしました。マクドナルドの駐車場で事故にあい、10日ほどギブスをしていました。ギブスをしている時に会った時は元気でしたが足をつくのが怖いのか歩かずに這っていました。事故の様子を二ーナから聞いた時は樹生や千智も事故に遭ったらと思った怖くなりました。以前から駐車場では小さな子供は車から見えないから危ないと思っていたのですが、トーマスの事故以来極力駐車場では子供の手を離さないようにするよう心がけています。皆さんも気をつけて下さいね。(美澄)